

2008年4月1日～2021年12月31日の間に 当科において上顎正中過剰埋伏歯に対する抜歯術を受けられた方及び そのご家族の方へ

—「上顎正中過剰埋伏歯における MDCT/CBCT を用いたアプローチ方向の検討」へご協
力のお願い—

研究責任者 岡山大学 学術研究院 医歯薬学域 口腔顎顔面外科学分野 助教 増井正典
研究分担者 岡山大学 学術研究院 医歯薬学域 口腔顎顔面外科学分野 准教授 伊原木聰一郎

1. 研究の概要

1) 研究の背景および目的

上顎正中過剰埋伏歯は、正常な歯の数よりも多くの歯が顎の骨の中に埋まっているものです。上顎正中過剰埋伏歯を放置すると、永久歯の萌出の遅延や不正な歯並びなどの原因となるため、多くの患者さんで抜歯が選択されます。上顎正中過剰埋伏歯の抜歯のためには歯科 X 線学的検査（パノラマ X 線写真、MDCT、CBCT、MD-CT）が行われ、上顎正中過剰埋伏歯の三次元的な位置評価を行い、抜歯術をどこから行うか、を決定します。しかし、その決定には統一した選択基準はなく、術者の判断によることが多いのが現状です。

本研究では、上顎正中過剰埋伏歯に対する抜歯術を終了された患者さまを対象とし、既に撮影された歯科 X 線学的検査を過去に遡って検索することで、埋伏歯と周囲の永久歯や上顎の骨の解剖学的な構造物との位置関係などを計測し、アプローチ方法の選択基準を検討することを目的としています。

具体的には、埋伏過剰歯の数、上顎の骨内における埋伏の方向・位置、抜歯時のアプローチ方向、周囲組織への影響、隣接する歯や上顎の骨の解剖学的な構造物との位置関係を計測します。

2) 予想される医学上の貢献及び研究の意義

研究成果により、歯科小手術の合併症を減少させることが出来る可能性があります。

2. 研究の方法

1) 研究対象者

2008年4月1日～2021年12月31日の間に岡山大学病院 口腔外科（口腔顎顔面外科部門）において上顎正中過剰埋伏歯の抜歯術を受けられた方 800 名を研究対象とします。

2) 研究期間

倫理委員会承認後～2027年3月末日

3) 研究方法

2008年4月1日～2021年12月31日の間に岡山大学病院 口腔外科（口腔顎顔面外科部門）において上顎正中過剰埋伏歯の抜歯術を受けられた方の既に撮影された歯科 X 線学的検査（パノラマ X 線写真、MDCT、CBCT）の画像から、埋伏歯と周囲の永久歯や上顎の骨の解剖学的な構造物との位置関係などを計測し、アプローチ方法の選択基準を検討します。

5) 使用する情報

この研究に使用する情報として、カルテから以下の情報を抽出し使用させていただきますが、氏名、生年月日などのあなたを直ちに特定できる情報は削除し使用します。また、あなたの情報などが漏洩しないようプライバシーの保護には細心の注意を払います。

- 1) 患者基本情報：年齢、性別、年齢、発見経緯
- 2) 歯科 X 線学的検査（パノラマ X 線写真、CBCT、MDCT）画像

6) 情報の保存、二次利用

この研究に使用した情報は、研究の中止または研究終了後5年間、口腔顎顔面外科学分野医局倉庫で保存させていただきます。電子情報の場合はパスワード等で制御されたコンピューターに保存し、その他の情報は施錠可能な保管庫に保存します。なお、保存した情報を用いて新たな研究を行う際は、倫理委員会にて承認を得ます。

7) 研究計画書および個人情報の開示

あなたのご希望があれば、個人情報の保護や研究の独創性の確保に支障がない範囲内で、この研究計画の資料等を閲覧または入手することができますので、お申し出ください。また、この研究における個人情報の開示は、あなたが希望される場合にのみ行います。あなたの同意により、ご家族等（父母（親権者）、配偶者、成人の子又は兄弟姉妹等、後見人、保佐人）を交えてお知らせすることもできます。内容についておわかりになりにくい点がありましたら、遠慮なく担当者にお尋ねください。

この研究は氏名、生年月日などのあなたを直ちに特定できるデータをわからない形にして、学会や論文で発表しますので、ご了解ください。

この研究にご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。また、あなたの情報が研究に使用されることについて、あなたもしくは代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としないので、下記の連絡先までお申し出ください。この場合も診療など病院サービスにおいて患者の皆様にも不利益が生じることはありません。

<問い合わせ・連絡先>

岡山大学病院 口腔外科（口腔顎顔面外科部門）

氏名：増井正典

電話：086-235-6702（平日：8時30分～17時30分）

ファックス：086-235-6704